

豊橋市高師校区住民によるドラッグストア利用の実態分析と将来の利用に向けた考察

愛知大学地域政策学部地域政策学科

まちづくりコース4年 駒木ゼミナール 松下瑠実

1.研究背景と目的

コロナ禍で業績を落とす業界が多い中、業績を上げていたドラッグストア業界では、多くの企業が全国規模で新規出店を競い合い、激しい争いをしつつ再編の動きが活発化している。その一方で、高齢化が進む中でセルフメディケーションを手助けする地域医療拠点のひとつとして期待されている。本研究は、立地店舗数が多く、近年の宅地開発や商業施設開発に伴って今後若年人口増加が見込まれる豊橋市高師校区において、住民のドラッグストア利用の実態調査を将来の人口動態と関連させて分析し、今後高師校区のドラッグストアに求められる姿を明らかにすることを目的とした。

2.研究の手順と結果

まず高師校区に商圈を持つドラッグストアの現状について、QGIS を利用した 3 つの空間分析を行った。カーネル密度推定法によると、高師校区は豊橋市内でもある程度ドラッグストアが集積しているエリアだという事が分かった。バッファ分析によると、豊橋市全域におけるドラッグストア 500m 商圈の面積カバー率と比較して高師校区の方が 25.4% 高く、徒歩圏内で利用可能な店舗が充実している住民にとって利用しやすいエリアだという事が示された。さらに面積按分によって算出された、高師校区に商圈を持つドラッグストア各店舗の商圈人口を豊橋市全体や業界で定義された商圈人口と比較・分析をした所、6 店舗のうち 5 店舗が 2 つの指標を大きく上回っていた。以上のことから、高師校区は業界の想定以上の集客が見込め、収益も見込めるエリアであると分かった。さらにドラッグストア利用に関する住民アンケート調査を行なった所、「ドラッグスギヤマ/高師店」が高師校区住民に 1 番利用されている店舗であり、回答者の居住地と利用する店舗の距離の関係を見ていくと、一般的に自宅から近い店舗を利用する傾向があることが分かった。(図 1)(表 1)75 歳以上になった場合の住民のニーズ調査では、店舗選びにおいて、アクセスのしやすさが圧倒的に重視されていることが分かった。また近隣のドラッグストアへ行く際の移動手段として、徒歩と回答した人が 1 番多く、続いて自分で自動車を運転する人が多かった。

高師校区住民の今後のドラッグストア利用におけるニーズと各店舗の特色から、今後も必要とされるドラッグストアであり続ける上で重要



【図 1】居住地と利用する店舗の距離的關係

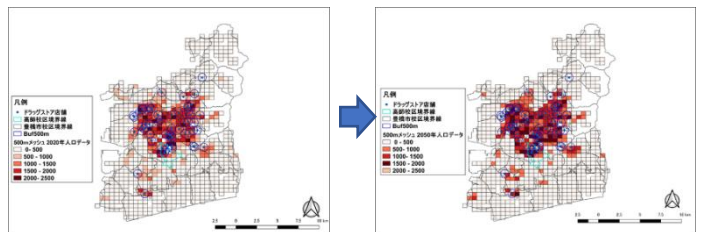
【表 1】店舗別に見た商圈人口特性

チェーン/店舗名	平均値(m)	最大値	最小値	中央値	標準偏差
ゲンキョー/高師店	540.2378214	1404.296	89.612	469.9185	281.4533733
ココカラファイン/あけぼの店	812.8076795	1983.651	242.498	752.2485	319.3038545
ココカラファイン/三木本店	565.4422897	1066.281	46.932	406.853	293.0487793
ココカラファイン/豊橋南店	718.95966	1257.647	376.529	661.717	281.3728529
サンドラッグ/豊橋南店	596.8537111	1894.83	78.825	417.891	450.9070052
ドラッグスギヤマ/高師店	495.5453367	1416.607	102.021	413.69	303.7463287
総計	3730.486651	9023.312	936.417	3122.318	1929.832194

な項目を検討した。(図 2)

【図 2】アンケート結果から明らかになった住民のニーズと各店舗の特徴

また、人口に基づいた成立条件も考慮して検討するために、面積按分を元に、2050 年の各店舗の商圈人口やその増減数も算出したところ、1 m²あたりの人口が 500 から 2000 人となるエリアが多く、2020 年の分析の際と大きく人口分布の様子が変わらないことが分かった。(図 3)このことから 2050 年時点では今後の人口減少の影響を大きく受けていないと予想される。



【図 3】豊橋市におけるドラッグストアと人口分布の推移(2020 年→2050 年)

3.考察と今後の展望

住民のドラッグストアの利用実態からは、第 1 に高師校区のドラッグストアは各々にとってアクセスしやすく、近隣施設も充実している事から高齢者にとって利用しやすいエリアであること、第 2 に住民にとって自宅から近くアクセスしやすいドラッグストア店舗が複数存在しているため店舗選択肢が増え各店舗の特色を考慮した店舗選びがしやすくなること、の 2 点が明らかとなった。また、開業から 20 年近く経った店舗の利用実態からは、2015 年以降に開業した比較的新しい店舗が多い高師校区においても、利用する店舗の固定化が進むことも考えられた。さらに、今後の人口動態と関連させた分析からは、2050 年時点では今後の人口減少の影響をさほど受けまいであろうことが分かった。尚、宅地開発が進んでいるミラまちエリアは、都市機能誘導区域に指定され、人口増加が見込める拠点とされている。現状の店舗の多くがミラまちエリア半径 1 km 圏内に立地しているため、商圈人口はさらに多くなると予想される。このエリアは「より豊かで活気に満ちた未来を 次世代を担う子どもたちに」をコンセプトとして開発されている事もあり、居住している人々の年齢も比較的若い。これらを考慮すると、各店舗幅広い世代のニーズに応えられるようなサービスの拡充等をしていく必要がある。日本全体として高齢化が進行する中で、エリア開発により若年層人口の増加も見込まれる高師校区は 2050 年になってもドラッグストアが存続していく上で高いポテンシャルを秘めた地域と言えるだろう。